

“木象嵌もどき”の練習

概要

- 糸ノコを使った木工に「木象嵌」というものがあるのは知っていたが、いくら何でも敷居が高過ぎると思いながら、ダメ元で「もどき」に挑戦してみることにした。

文字 行書体 90Pt

材料 アガチス 3t、モミジ 4t

材料費 0円（残材ほか）

完成：2014年3月



↑ アガチス材の中に白いモミジ材を嵌め込む、全体に白っぽいのは、磨いたカスが残っていたようです。

→ 嵌め込み前の状態（行書体フォント 90Pt）

オスメスを別々に加工したので、合わせるのに苦労しますが、0.4tの糸ノコで細かい所も欠けることはありませんでした。やはりモミジの方が加工し易かった。板厚はアガチスが3t、モミジ材（白）が4t

他の文字も板厚を変えて練習して、細かい部分のコツを掴みたいと思います。

↓ もらってきた薪、多分モミジですが、充分乾燥していて、木目も緻密で堅そうです。これから素材を作りました。



→取りあえず 4,5,6,10tの板材をノコで切り出す。丸い穴は治具の穴ですが、うっかり一番おいしい所に加工してしまう凡ミス。薪からきれいな板材を作り出すのも結構面白い作業です。



裏話

- 旅先などで「木象嵌」という技法の素晴らしい作品を目にすることがあり、簡単なものに挑戦したいとヒノキ材で練習してみたが、細かいところがポロッと欠けて散々な結果。但し、勘所は少し分かってきた。
- 木象嵌には、針葉樹より広葉樹で、ある程度硬い木がよさそうだが、通販以外では入手できそうになかった時、田舎に帰省した折に、「薪」として積んである中にモミジらしきを見つけて貰ってきた。
- 60Ptフォントでも「和」という字を作ってみたが、小さくて扱いにくいので90Ptにサイズアップ。
- 象嵌は、2枚の板を重ね切りすれば簡単そうだが、糸ノコの厚さが隙間となり美麗ではないので却下。
- 正確に嵌め込むには、2枚板の重ね切りで、ノコを板厚に合わせて傾けて加工すれば、原理的には隙間ゼロで嵌め込めるが、とても手間と根気が要りそうです。（最初に糸ノコを通すキリ穴の残処理方法が見つければ、挑戦してみたい方法の一つです）取りあえずこれで、孫へのプレゼント製作に着手できます。